

牟岐町

令和2年3月作成

津波避難
マップ

わが家の避難先

災害に備えて、避難する際の避難先・避難経路を事前に家族で話し合って決めておきましょう。避難先・避難経路は複数の候補を決めておきましょう。
また避難訓練を行い、実際にかかった所要時間を目安として記入しておきましょう。

第1候補

歩いて_____分

第2候補

歩いて_____分

第3候補

歩いて_____分

凡 例

津波時の避難先

緊急避難場所

津波避難ビル

斜面崩壊の危険がある範囲

土砂災害に関する詳細情報は徳島県ホームページ(土砂災害警戒区域等マップ)で確認できます

避難方向

備蓄倉庫

津波災害警戒区域
(避難対象地域)

基準水位

10m以上

5 ~ 10m

3 ~ 5m

0.5 ~ 3m

0.01 ~ 0.5m

津波影響開始時間

地震発生後、初期水位から20cm以上の変化が生じるまでの時間

約 11 分

津波水位

津波による最大水位(標高)

最大 9.8m

過去の浸水範囲

(1946年昭和南海地震津波)

津波浸水想定の設定条件

●想定津波：南海トラフ巨大地震(マグニチュード9.1)による最大クラスの津波

●初期水位

満位：朔望平均満潮位

大潮の時期(朔と望)の最高満潮位の平均

河川内の水位：平水流量による水位または、沿岸の朔望平均満潮位

●構造物の取り扱い

○堤防・護岸・防潮堤

コンクリート構造物:地震によりすべて破壊

盛土構造物：地震により75%沈下し、津波が乗り越えた時点で破壊

○水門等：耐震性を有し自動化された施設、常時閉鎖の施設等以外、開放状態

○建築物：建物の代わりに津波が通上する時の摩擦(相度)を設定

●「津波災害警戒区域」は、津波が発生した場合に生命・身体に危害が生ずるおそれがある区域で、「徳島県津波浸水想定(平成24年10月)」を基に、徳島県が指定(平成26年3月)しています。

●牟岐町では、津波災害警戒区域を避難対象地域としています。

●「基準水位」とは、津波浸水想定に定める水深に係る水位に建築物等に衝突する津波の水位の上昇(せき上げ)を考慮して、必要と認められる値を加えて定める水位です。

●「基準水位」の数値は、徳島県ホームページで閲覧できます。

●津波浸水想定は、**最大クラスの津波が悪条件下で発生**した場合を想定されたものです。また最大クラスの津波は、現在の科学的知見を基に、過去に実際に発生した津波や今後発生が想定される津波から設定したものであり、**これよりも大きな津波が発生する可能性がないというものではありません。**

●河川や池、沼、水路は、着色されていませんが、津波の遡上等により浸水することがあります。

津波災害警戒区域
(避難対象地域)

海岸線

津波水位
(標高m)

基準水位

標高±0m (東京湾平均海面T.P.±0m)

牟岐町

このマップは、色覚の多様性に配慮して編集をしています。

牟岐

約 11 分 最大 9.8m

0 100 200 300 400 500m

北

災害情報と避難情報

津波警報・注意報・予報の活用

地震発生後、防災行政無線や携帯電話、テレビやラジオを通じて地震情報と津波情報が発表されます。津波発生の恐れがあるときは、いち早く避難してください。

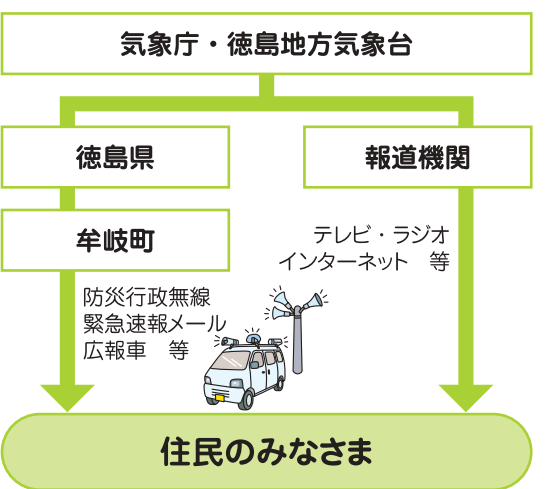
		予想される津波		巨大地震の場合の表現	想定される被害	とるべき行動
特別警報	大津波警報	予測される津波の高さ	発表される津波の高さ			
		10m～	10m超	巨大	家屋が全壊・流失	直ちに避難。
		5～10m	10m			
警報	津波警報	3～5m	5m	高い	低地で浸水被害が発生	ここなら安心と思わず、より高い場所に避難。警報等が解除されるまで、絶対に低地に戻らない。
		1～3m	3m			
注意報	津波注意報	0.2～1m	1m	表現しない	海では、人が流されるほど早い流れが発生する筏が流失したり、小型船舶が転覆する	海岸から離れ、近づかない。
		0.2m未満	0.2m未満			
予報	津波予報	津波の心配なし			被害の心配なし	特段の防災対策の必要はない。
		若干の海面変動が継続				

避難指示・避難勧告等

町は、災害が発生、又は発生するおそれがある場合には、住民の生命を守るため、下表の避難指示・勧告等を発令します。

避難指示(緊急)	著しい危険が切迫しています 直ちに避難してください
避難勧告	危険が迫っています 早めに避難してください
避難準備・高齢者等避難開始	災害の発生する可能性が高まっています 災害時要支援者等、特に避難に時間を要する方は、早めに避難してください

情報伝達



地震・津波への対応

緊急地震速報を見聞きしたら

- 周囲に知らせる
 - 避難口(出口)を確認
 - 運転中はハザードランプを点灯し、緩やかに減速
 - 門や塀、自動販売機やビルから離れる
- ※震源が近いときや直下型地震の場合、緊急地震速報が強い揺れに間に合わないことがあります。状況に応じて、あわてずに、身の安全を確保しましょう。

臨時情報が発表されたら

- 自らの状況(建物の耐震性・避難の困難さなど)を考え、早めに避難したり警戒態勢をとる
- 浸水等の被害の恐れがない安全な場所へ1週間程度避難することを考え、食料等を確認する

非常持ち出し袋の準備

水・食料・常備薬等、避難する時にリュック等で背負って持ち運びしやすいように、あらかじめ準備しておきましょう。中身を定期的に点検し、古いものは交換しましょう。

津波避難の心得「より早く、より高く」

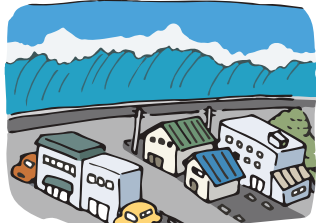
速やかな避難開始

- 弱くても長い時間揺れを感じたときや、大津波警報や津波警報が発表されたら直ちに避難(判断に迷ったら避難)
- 海や河口の様子を見に行かない
- テレビを見続けたり、地震の片付けをしない
- 直ちに海岸や河口から離れ、高台などの安全な場所へ速やかに避難
- 遠くより、高いところを目指す
- ヘルメットや防災頭巾をかぶり、非常持出袋を背負って、靴底の厚い靴を履く
- 余震に備え、被害を受けた建物やブロック塀、自動販売機、電柱等から離れて避難
- 定期的に訓練を行い、避難時の課題などについて検討しましょう

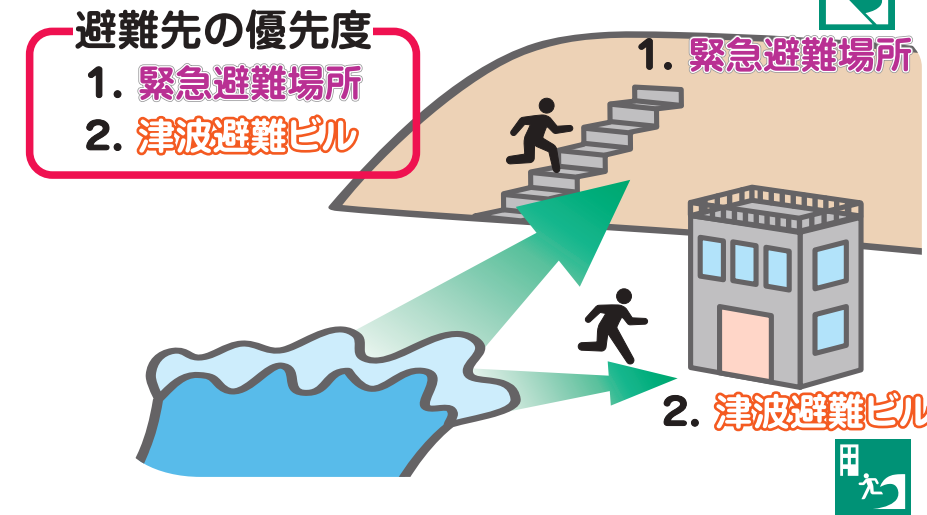
想定される地震・津波

南海トラフで発生する地震は、今後30年以内に発生する確率が70～80%^{*1}とされています。南海トラフ沿いで最大規模の地震(マグニチュード9.1)が発生した場合、牟岐町では、ほとんどの低平地で震度7、それ以外の地域で震度6強と、町全域で非常に強い揺れが想定されています^{*2}。さらに、液状化現象の危険性も、低平地では極めて高いと評価されています^{*2}。津波浸水想定では牟岐町の平野部の大部分が5～10mの基準水位となり、沿岸部では高いところで10m以上にも及ぶと想定されています^{*2}。

※1 地震調査研究推進本部・地震調査委員会、平成31年1月1日評価時点
※2 徳島県南海トラフ巨大地震被害想定(第一次)、平成25年7月31日、徳島県公表



避難先の優先度



避難先一覧

緊急避難場所 津波避難対象地域の外側の高台や施設で、原則、津波避難対象地域内の鉄筋コンクリート造の建物で、基準水位より高い階や屋上がある建物

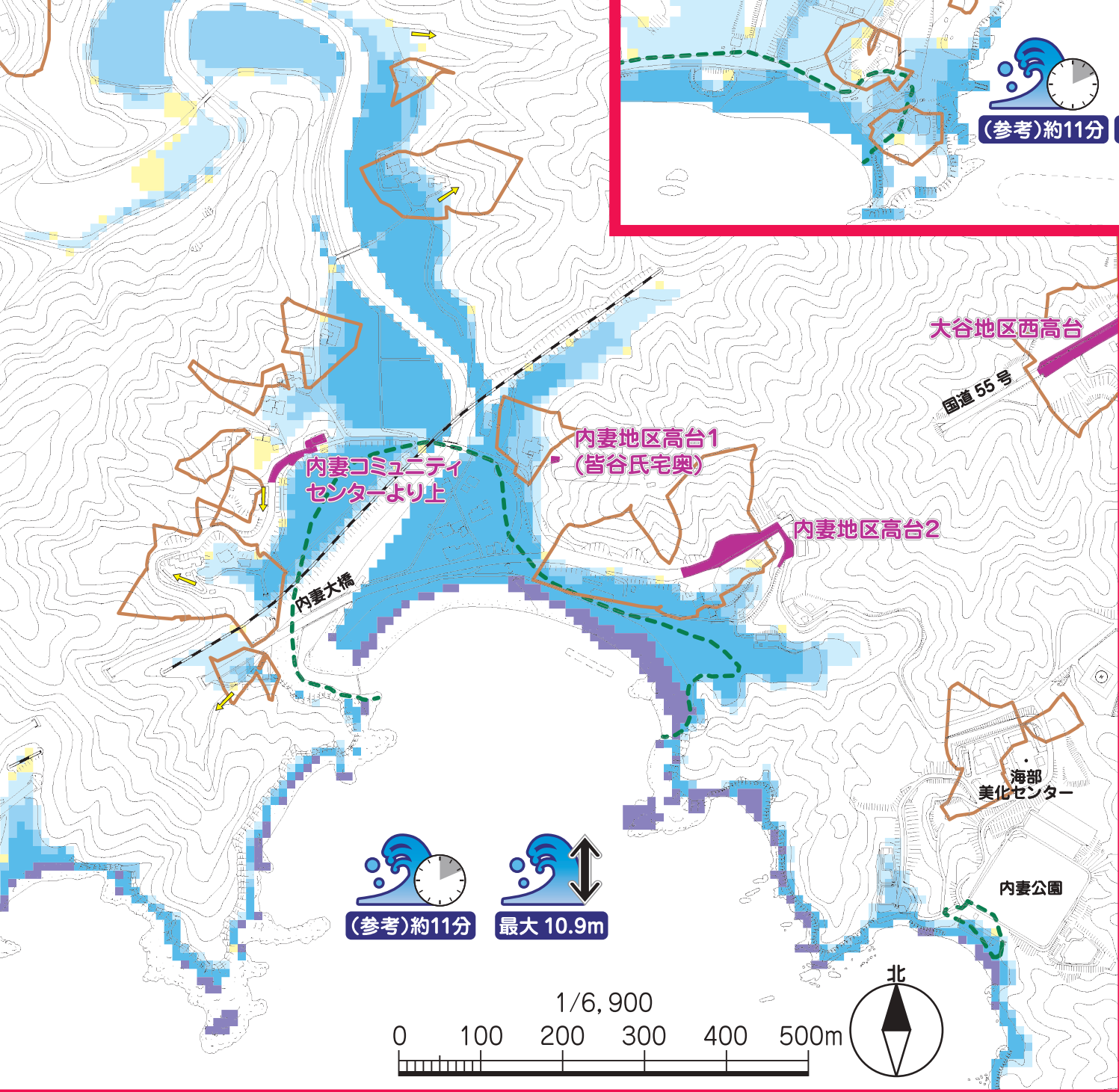
津波避難ビル

緊急避難場所	標高(m)	緊急避難場所	標高(m)
楠の浦地区高台	19.7～	天神前地区高台	16.1～
八坂地区高台	13.8～	天神社南側山道	9.6～
大谷地区西高台	13.3～	秋葉避難広場	18.8
大谷地区高台	11.8～	八幡避難広場裏山	19.4～
大谷避難広場	12.1～	海蔵寺	14.6～
正観寺前広場	17.9	海蔵寺墓地	12.1～
山田地区高台	10.5～	サンライン入口周辺	11.9～
杉谷ハイツ	26.7～	柿久保・浦岡氏宅付近	18.4
海部病院北側避難広場	15.2～	中山地区高台	13.2
大田氏宅周辺	15.6	東部コミュニティセンター裏山	14.7～
牟岐 杉玉神社	11.2～	内妻コミュニティセンターより上	8.7～
海部老人ホーム	12.2～	内妻地区高台1 (皆谷氏宅奥)	16.4～
皆の谷団地駐車場	12.0	内妻地区高台2	約20～
三崎神社	18.0	蛭子神社上高台	25.4
河内地区軍人墓地	18.4～	古牟岐地区東高台	12.0～
山戸地区高台1	11.2～	県立牟岐少年自然の家	10.8～
山戸地区高台2	13.8～	スバナ地区高台	10.7～
介護老人保健施設和楽	9.8	出羽島 出羽島地区ヘリポート	21.5
洞雲寺裏山	9.7～	平野氏宅跡地	11.5
大坪地区高台	9.9	観栄寺裏山	11.6～
牟岐小中学校	9.3～		
市宇谷地区高台	12.1		
津波避難ビル	標高(m)	津波避難ビル	標高(m)
西浦コミュニティセンター 3階	10.6	特別養護老人ホーム緑風荘 2階以上	11.2～
浜の家 屋上	10.7	海の総合文化センター 2階以上	9.4～
旧牟岐小学校(北校舎)3階以上	11.0～	町民体育館 2階	13.9
中村津波避難タワー	10.4	町民センター 2階	12.8
徳島大正銀行 3階	11.1		
旧海部病院 4階・屋上	15.5～		
NTT牟岐ビル 屋上	16.9	出羽島 出羽島地区津波避難タワー	9.3

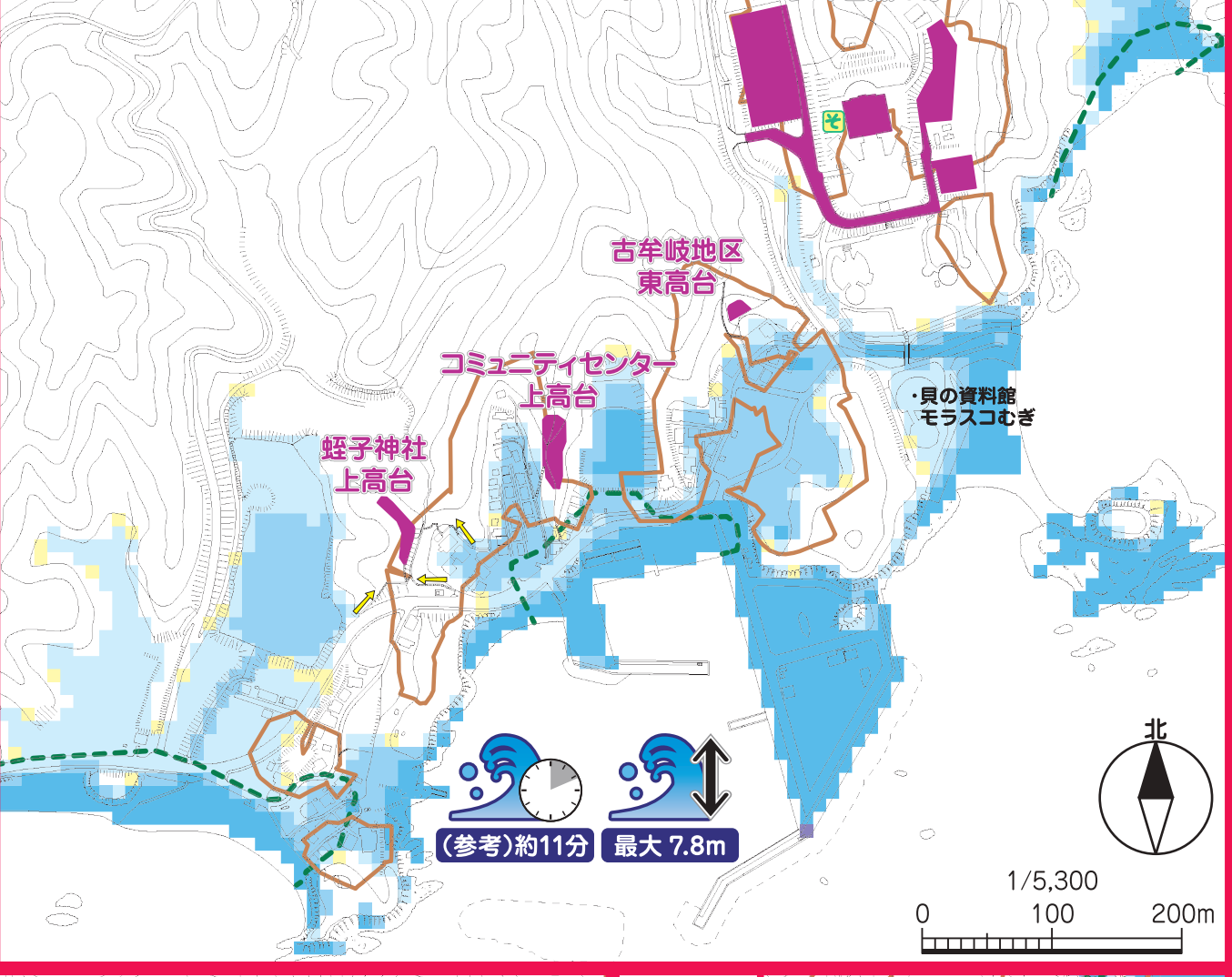
出羽島



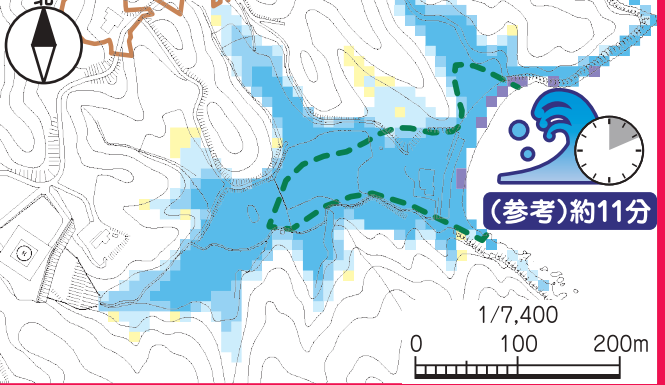
内妻



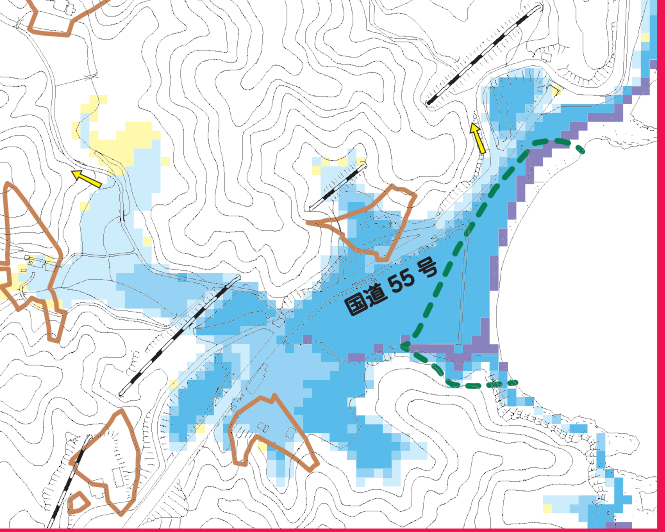
古牟岐



大戸



古江



わが家の避難先

第1候補	
歩いて	分
第2候補	第3候補
歩いて	歩いて
分	分

凡 例

津波時の避難先
■ 緊急避難場所
■ 津波避難ビル

斜面崩壊の危険がある範囲
土砂災害に関する詳細情報は徳島県ホームページ(土砂災害警戒区域等マップ)で確認できます。

避難方向 備蓄倉庫

過去の浸水範囲
(1946年昭和南海地震津波)

津波影響開始時間
(参考)約11分
地震発生後、初期水位から20m以上の変化が生じるまでの時間。

津波水位
津波による最大水位(標高)
最大 10.9m

津波災害警戒区域(避難対象地域)
基準水位
10m以上
5～10m
3～5m
0.5～3m
0.01～0.5m

津波浸水想定の設定条件
●想定津波：南海トラフ巨大地震(マグニチュード9.1)による最大クラスの津波
●初期水位
●満位：朔望平均満潮位
●大潮の時期(朔と望)の最高満潮位の平均
●河川内の水位：平水流量による水位または、沿岸の朔望平均満潮位
●構造物の取り扱い
○堤防・護岸・防潮堤
○コンクリート構造物:地震によりすべて破壊
○盛土構造物:地震により75%沈下し、津波が乗り越えた時点で破壊
○水門等：耐震性を有し自動化された施設、常時閉鎖の施設等以外、開放状態
○建築物：建物の代わりに津波が遡上する時の摩擦(粗度)を設定

●「津波災害警戒区域」は、津波が発生した場合に生命・身体に危害が生ずるおそれがある区域で、「徳島県津波浸水想定(平成24年10月)」を基に、徳島県が指定(平成26年3月)しています。
●牟岐町では、津波災害警戒区域を避難対象地域としています。
●基準水位とは、津波浸水想定に定める水深に係る水位に建築物等に衝突する津波の水位の上昇(せき上げ)を考慮して、必要と認められる値を加えて定める水位です。
●基準水位・数値は、徳島県ホームページで閲覧できます。
●津波浸水想定は、**最大クラスの津波が悪条件下で発生した場合**を想定されたものです。また最大クラスの津波は、現在の科学的知見を基に、過去に実際に発生した津波や今後発生が想定される津波から設定したものであり、**これよりも大きな津波が発生する可能性がないというものではありません。**
●河川や池、沼、水路は、着色されていませんが、津波の遡上等により浸水することがあります。

津波災害警戒区域(避難対象地域)
津波水位(標高)
基準水位
標高±0m(東京湾平均海面T.P.±0m)

このマップは、色覚の多様性に配慮して編集をしています。

牟岐町 令和2年3月作成